

次代に伝える沖縄戦 「対話」の力を信じて

平良次子^{たいらつぎこ}さん(対馬丸記念館館長)

2026年6月28日(日)

開会18時30分(開場18時15分)

Coconeri3階 区民・産業プラザ 研修室1

都営大江戸線・西武池袋線練馬駅下車 西武線中央改札口より北側ペDESTリアンデッキ徒歩1分
1階にLIFE、2階にユニクロが入っているビルです

資料代

700円

会場・
オンラインとも



平良次子(たいらつぎこ)さん
1962年、沖縄県大宜味村喜如嘉生まれ。大学卒業後、87年から南風原町立南風原文化センターに勤務。地域から平和と文化を紡ぐ活動を支え、2023年までの3年間、館長を務めた。24年に対馬丸記念館館長就任。

平良次子さんの母、平良啓子さんは9歳だった1944年8月、学童疎開船の対馬丸が米軍潜水艦に撃沈されて漂流、九死に一生を得て、戦後は「命の大切さを教えたい」と小学校の教師となり、早くから対馬丸事件の「語り部」として体験を伝えてこられました。

戦地の一つである南風原文化センター学芸員・館長として沖縄戦の実相を伝えると同時に琉球絃の継承にも力を注いできた次子さんは、2023年7月に啓子さんが亡くなられた後、対馬丸記念館館長に就任。直接体験者の話を聞くことができた世代として、次代に伝えるための「対話」の必要性を感じています。

今も世界のさまざまなところで戦禍に苦しむ人々の姿が、日々ネットを通して私たちの目に入ってきます。その映像を見て、軍備増強や核兵器保有の必要性を訴える若い世代の人たちが沖縄にも多くいます。平良さんは「自分の立場からできることをそれぞれが動き出すことも大切」と思い、2025年2月には県内の8つの平和関連施設が連携する「沖縄・平和と人権博物館ネットワーク」の設立を呼びかけました。

「非戦」の思いを自分の言葉にし、意見が違う人とも「対話」を重ねる。沖縄だけでなく、私たちこそその努力を求められているのではないのでしょうか。

平良さんと一緒に考えてみませんか。

★オンライン参加のお申し込み

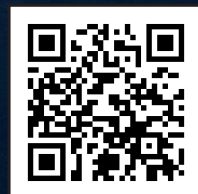
会場で参加される方は申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください。

オンライン参加をご希望の方は

下記サイトより申し込みをお願いします。

<https://okinawasen-nerima26.peatix.com>

予約
サイト



沖縄戦を考える練馬の集い実行委員会

【お問い合わせ・連絡先】090-8311-6678 kashiwa09autumn@gmail.com (柏木)